



ALINCO Now

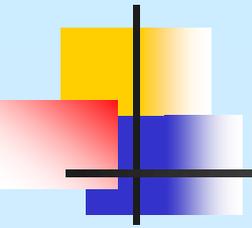
Aug., 2019

進化する足場。
アルバトロス

ALINCO

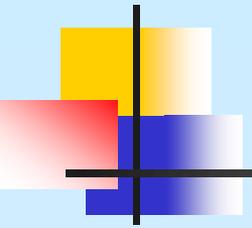
Stock code 5933

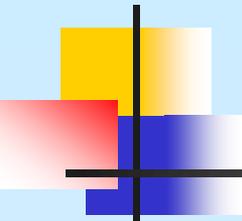
<https://www.alinco.co.jp/>



目次

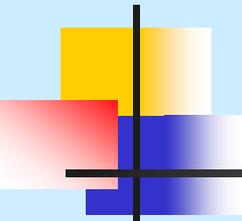
1. アルインコの概要と事業の特徴
2. 今後の事業展開
3. 投資等の推移と配当政策
4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
5. 2020年3月期第1四半期の状況

- 
-
1. アルインコの概要と事業の特徴
 2. 今後の事業展開
 3. 投資等の推移と配当政策
 4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
 5. 2020年3月期第1四半期の状況



会社基本情報

■社名	アルインコ株式会社
■上場市場	東証1部（2014年12月1日付け指定）
■創業	1938年
■設立年月日	1970年7月4日
■従業員数	1,358名(連結)、うち海外407名(2019年3月20日現在)
■資本金	63億61百万円
■発行済み株式数	21,039,326株
■連結総資産	543億2百万円(2019年3月20日現在)
■子会社	17社(国内8社、中国4社、タイ3社、ベトナム1社 インドネシア1社) (2019年3月20日現在)
■会計期間	3月21日～3月20日
■会計基準	日本基準



会社の沿革

1938年（昭和13年）	大阪において創業
1970年（昭和45年）	井上鉄工株式会社設立
1983年（昭和58年）	社名を「アルインコ株式会社」に変更
1993年（平成 5年）	大阪証券取引所市場第二部に上場
2003年（平成15年）	中華人民共和国に現地法人を設立し、アルミ製品の生産を開始
2012年（平成24年）	タイ王国に現地法人を設立し、仮設機材の生産・レンタル事業を開始
2014年（平成26年）	インドネシア共和国に現地法人を設立 東京証券取引所市場一部銘柄に指定
2015年（平成27年）	東京本社を設置し2本社制とする 兵庫第2工場を拡張し生産能力を増強 海外への投資を拡大
2017年（平成29年）	物流関連製品メーカーの双福鋼器(株)を子会社化
2018年（平成30年）	アルミブリッジメーカーの昭和ブリッジ販売(株)を子会社化

現在の事業セグメント

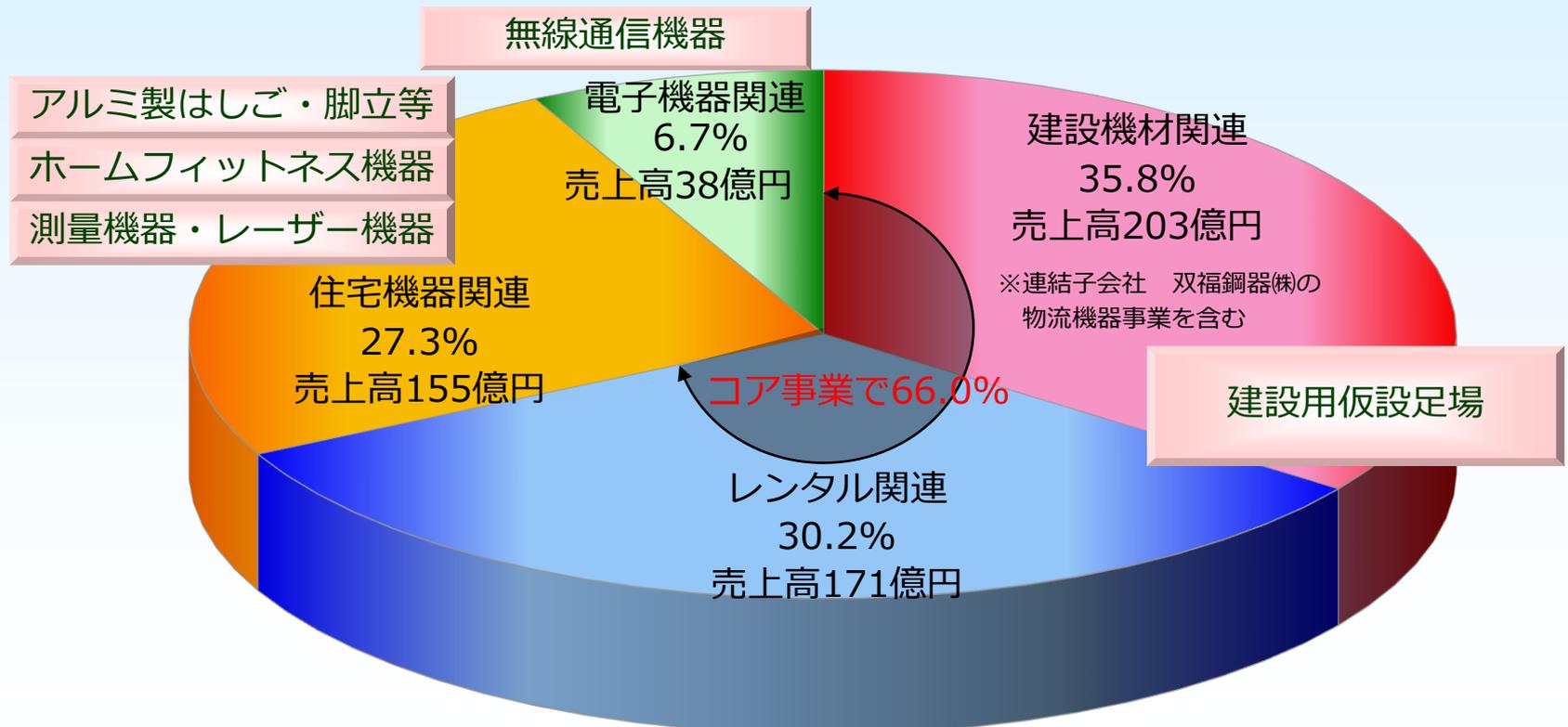
(2019年3月期実績)

連結売上高 538億円
連結経常利益 33億円

(2020年3月期計画)

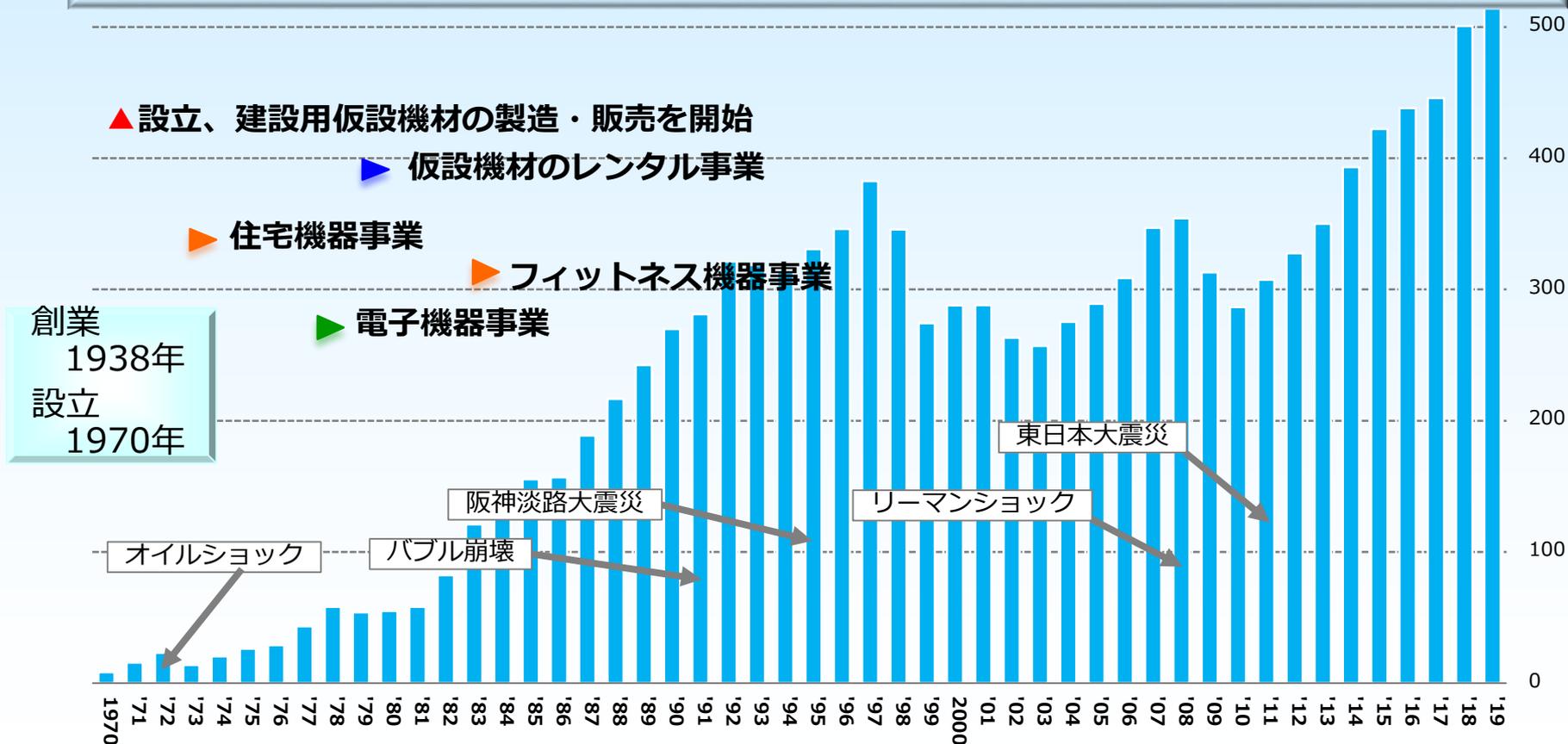
連結売上高 567 億円
連結経常利益 33.5億円

※ 下の円グラフは2020年3月期計画の数値



事業展開の軌跡

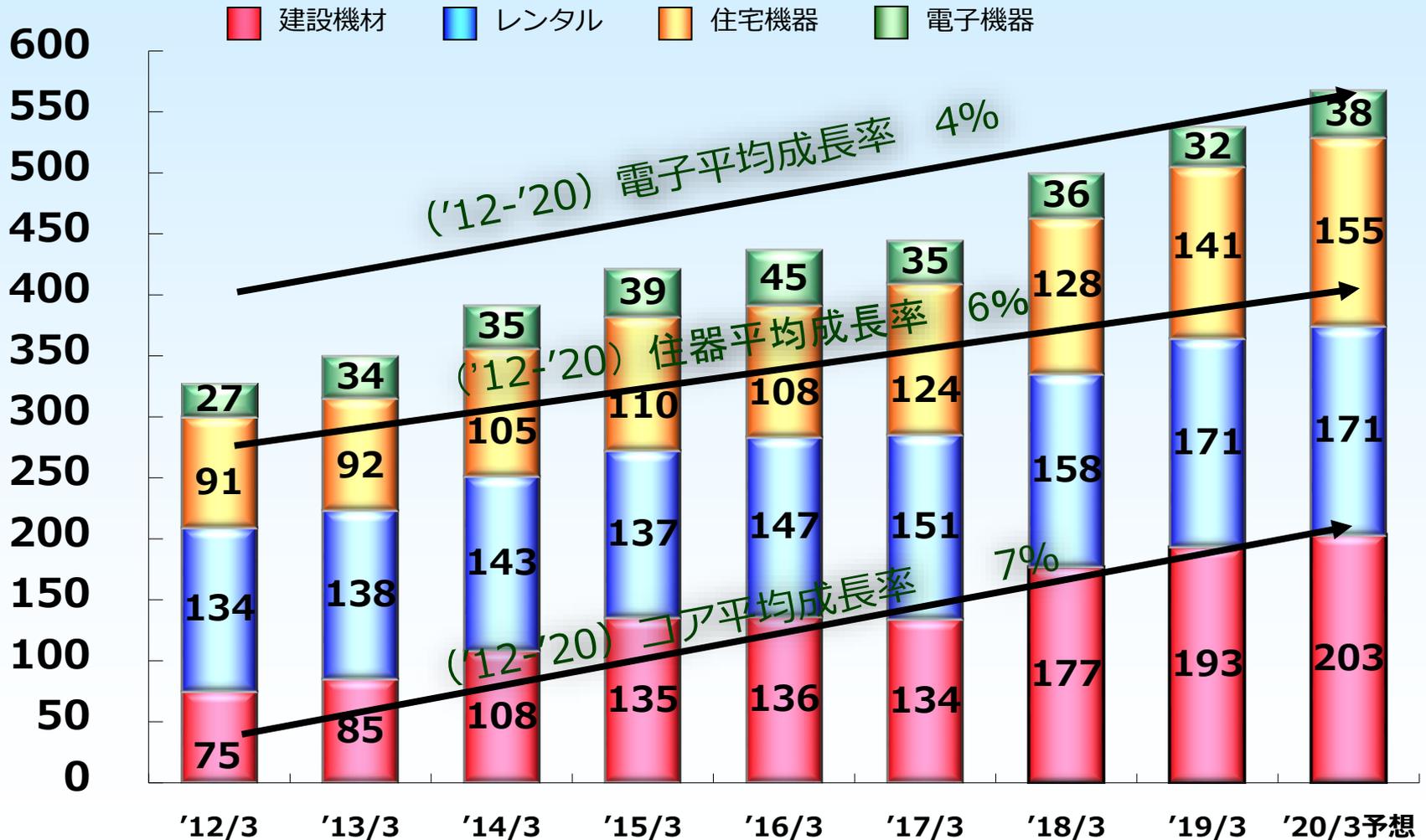
多角化による収益安定化を目指しており、建設機材及びレンタルセグメントに並ぶ事業セグメントの確立をニッチマーケットを起点として進めています



セグメント別業績の推移

コア事業（建設機材+レンタル関連事業）だけでなく、
住宅機器ならびに電子機器も成長を続けています

(億円)



建設機材とレンタル関連の特徴

当社はメーカーレンタルとして強みを発揮

メーカー



- ・現場の課題を解決する製品開発
- ・Just-in-Timeの供給能力

レンタル会社



- ・仮設機材調達コストの低減
- ・機材の稼働率に応じた調達(量とタイミング)

建築関連工事
土木関連工事
プラント関連工事



- ・仮設レンタルコスト低減
- ・作業の安全と効率化
- ・様々な現場に対応可能な機材開発ニーズ

建設機材・レンタルで活躍する製品

進化する足場「アルバトロス」

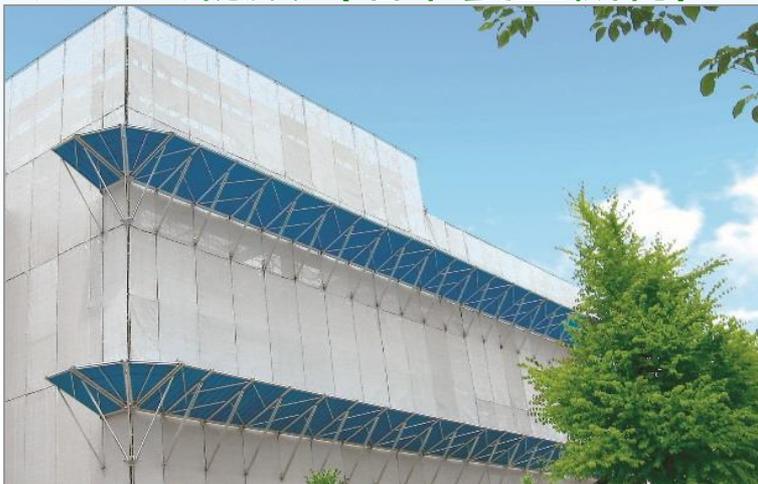
高さ80mまで組み上げ



支保工や円形の建物にも対応

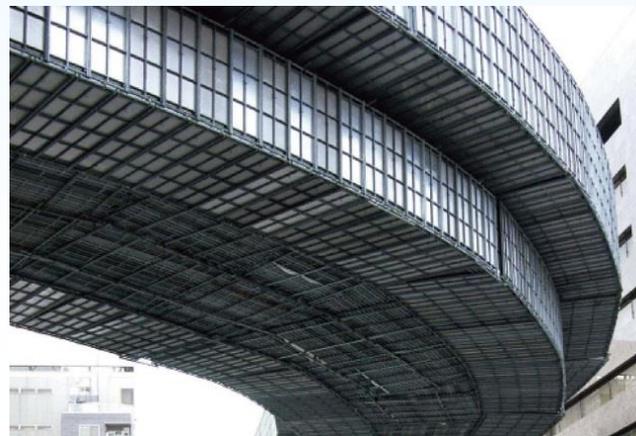


アルミ朝顔（落下養生機材）



セーフティSKパネル

国土交通省 新技術情報提供システム登録商品



海外市場におけるビジネスモデル確立

- 海外市場のターゲットは、中国、タイ、インドネシア
- 顧客は、各国の日系ゼネコンからローカルに展開進む
- 日本で培った仮設機材の整備品質管理や現場環境に応じた施工ノウハウ提供など、ソフト分野での差別化によって付加価値高める

東南アジアの一般的な足場施工現場



東南アジアでの当社足場施工現場



住宅機器関連の特徴



住宅機器事業で活躍する製品

住宅機器

各種アルミ作業台



フィットネス機器



電子機器関連の特徴

- 小型無線技術にフォーカス
- 特定小電力無線機のインカム展開
- 業務用インカム→防災分野→業務用無線
- デジタル化の流れで業務用無線シェア拡大
- ICT市場向け無線モジュール製品拡大

インナーモジュール無線

GNSSシステムブルドーザ



業務用無線



防災・行政無線

消防・救急無線

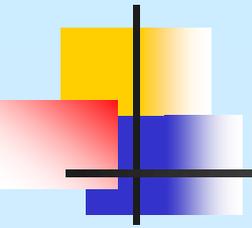


特定小電力無線



国土交通省が推進するICT自動化施工において、IT技術搭載の測量機器や建設機械のC（コミュニケーション）部分を当社の無線モジュールが担う
注 写真はイメージで実際に搭載されている製品とは異なります

Wireless
Radio
Tec.

- 
-
1. アルインコの概要と事業の特徴
 2. 今後の事業展開
 3. 投資等の推移と配当政策
 4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
 5. 2020年3月期第1四半期の状況

当社の経営方針

■ 経営方針

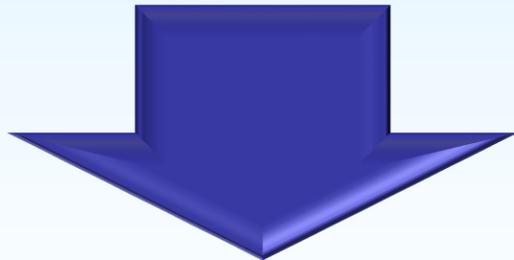
ニッチマーケットでトップ企業に

中期的な数値目標

■ 連結経常利益率10%

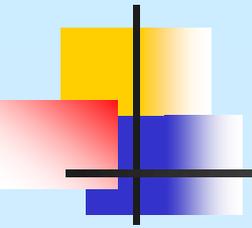
■ 株主資本比率60%

各セグメントがそれぞれの事業ドメインにおいて
トップグループの地位を確立している



進化する足場

様々な情報が集まり、セグメント間で共有されて
製品やサービスの開発につながる



今後のビジネス展開

■ 中長期戦略

1. 各セグメントにおける取組

■ 建設機材及びレンタル関連事業

新型足場「アルバトロス」を軸に支保工分野など旧型足場では参入できなかった工事分野への水平展開

■ 住宅機器関連事業

アルミ昇降製品分野・・・カスタムメイド対応強化とM&Aシナジーの追究

フィットネス分野・・・介護／理美容関連業界への展開加速

■ 電子機器関連事業

無線モジュール製品の採用分野拡大

2. 海外市場におけるビジネスモデル確立

- 日本で培った仮設機材の整備品質管理や現場環境に応じた施工ノウハウ提供など、ソフト分野での差別化によって付加価値高める

2020年以降の成長に向けた展開

「仮設機材」に関連するコア事業中心のポートフォリオから
4つのセグメントがそれぞれ柱となるポートフォリオへ

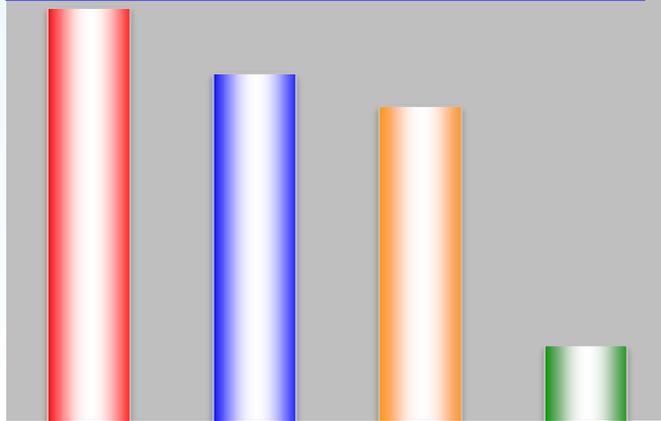
重点課題1

建設機材とレンタル関連事業

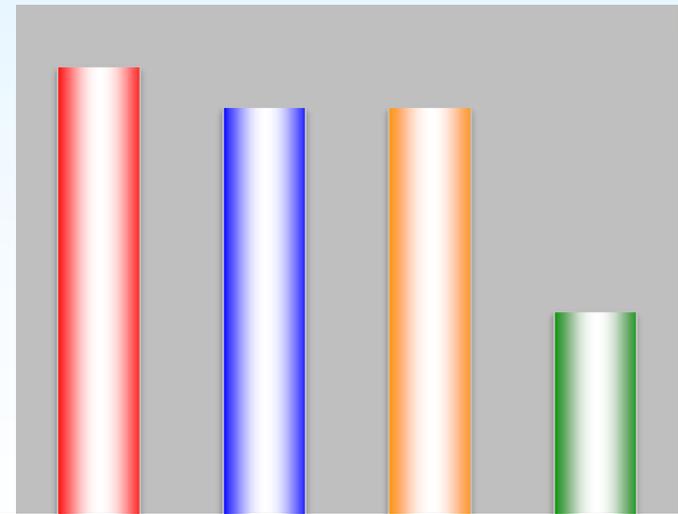
- 新型足場のシェア拡大と更新需要の取り込み
- 土木関連機材の開発と製品展開
- 海外における仮設機材レンタルの拡大

重点課題2

- 住宅機器と電子機器をコア事業の規模に拡大



建設機材 レンタル 住宅機器 電子機器
2020年3月期 セグメント別売上高計画



建設機材 レンタル 住宅機器 電子機器
中・長期のセグメント別売上高イメージ

動き出す仮設機材市場への対応

仮設機材メーカー各社は、仮設機材レンタル会社の機材更新ニーズと建設投資額の回復による業績拡大機会を捉えて、旧来の枠組み足場から新型足場への転換を提案しています
市場の仮設機材総保有額は約5,800億円（※軽仮設リース業協会調べ）
成熟した市場が機材更新ニーズに加え、新型足場への転換によって動き出します

従来の枠組足場が

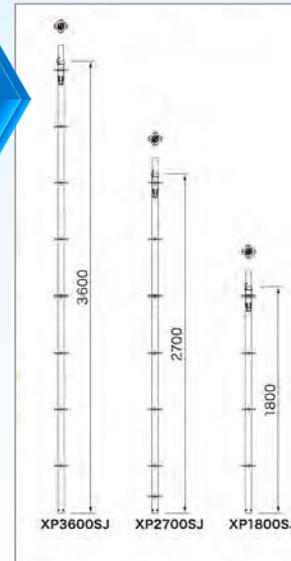
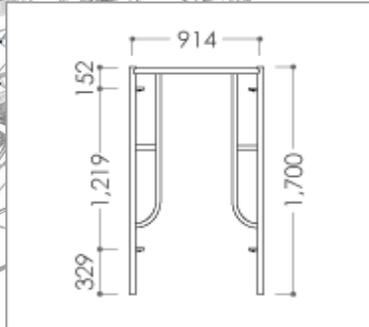
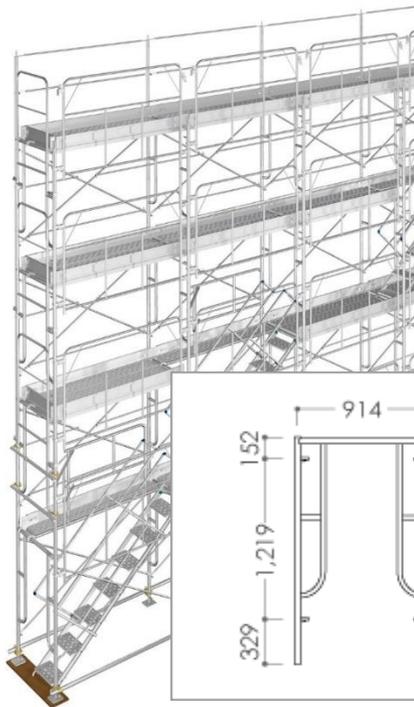
軽量・コンパクト

一側クサビ式の
新型足場
「アルバトロス」へ

広い作業空間

多様な形状の建築現場に対応可能な柔軟性

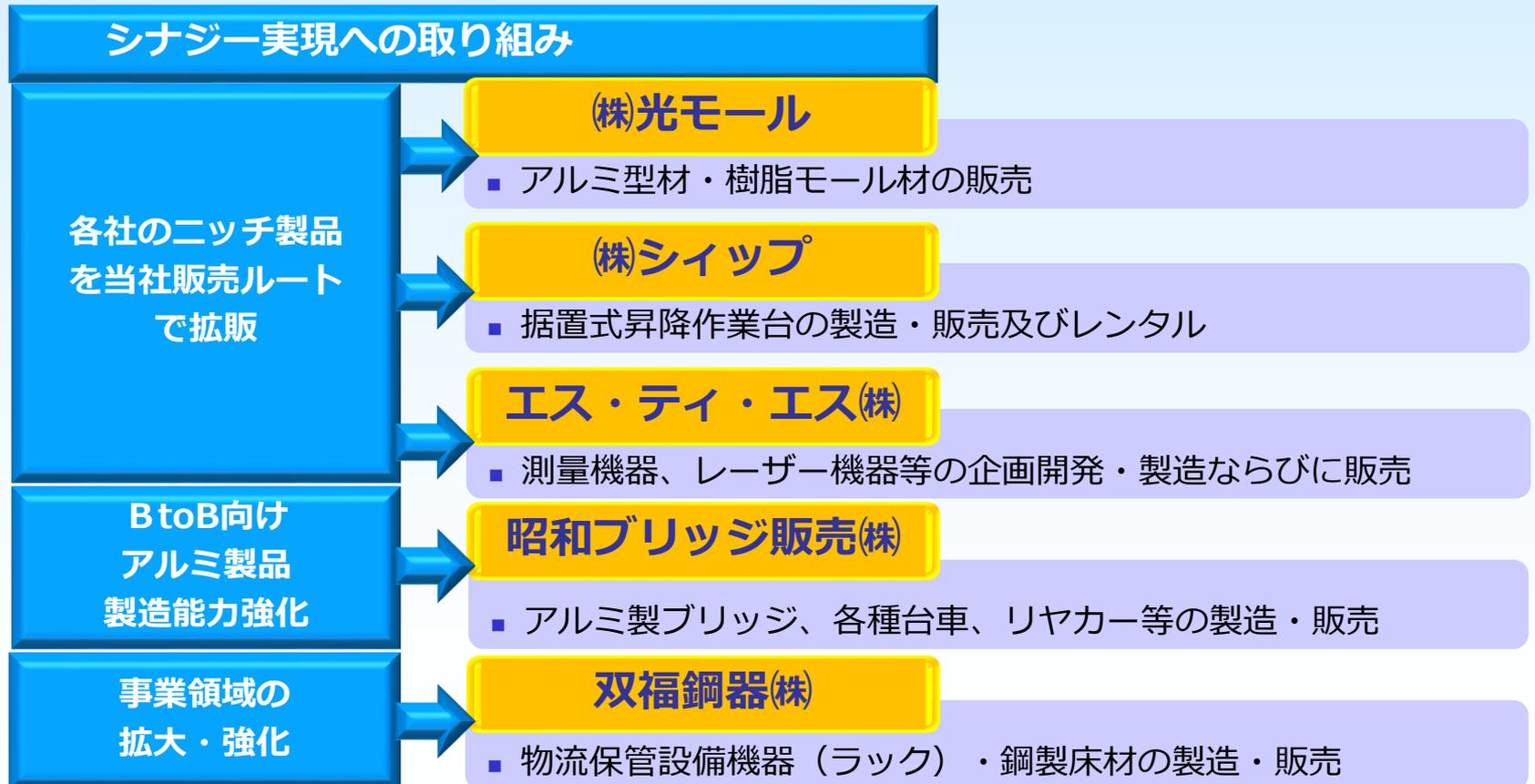
- ✓ 輸送・保管コスト削減
- ✓ 施工時間短縮
- ✓ 作業負荷軽減



当社「アルバトロス」は、耐久性に優れたシステム足場
土木・プラント分野への展開も可能

M&Aへの積極的な取り組み

- 高い優位性を誇る製品や事業ノウハウを持った、ニッチマーケットのリーディングカンパニーをM&A
- ニッチマーケットの連続的な創出に取り組む



物流業界の成長性を取り込む

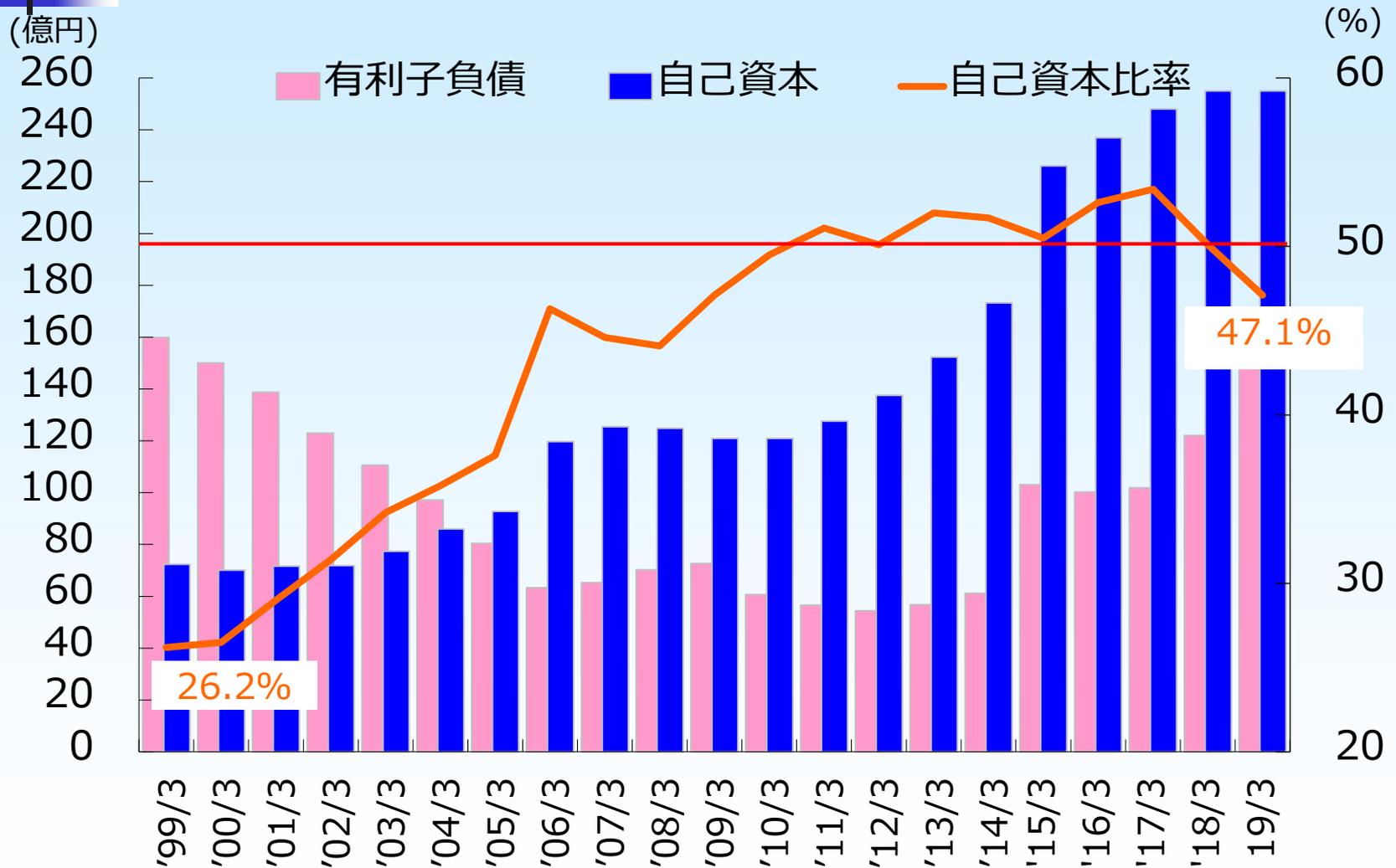
双福鋼器(株)を子会社化

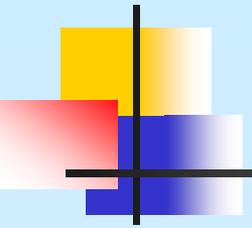
■ 人手不足等により加速する「物流改革」の波によって、次世代型物流システム機器へのニーズが高まるなか、多頻度・短時間・小口化・無人化の要請に対応可能な高性能ラックシステムを得意とする同社の成長性を取り込みます

物流施設内の高性能ラック



強みを発揮する安定した財務基盤

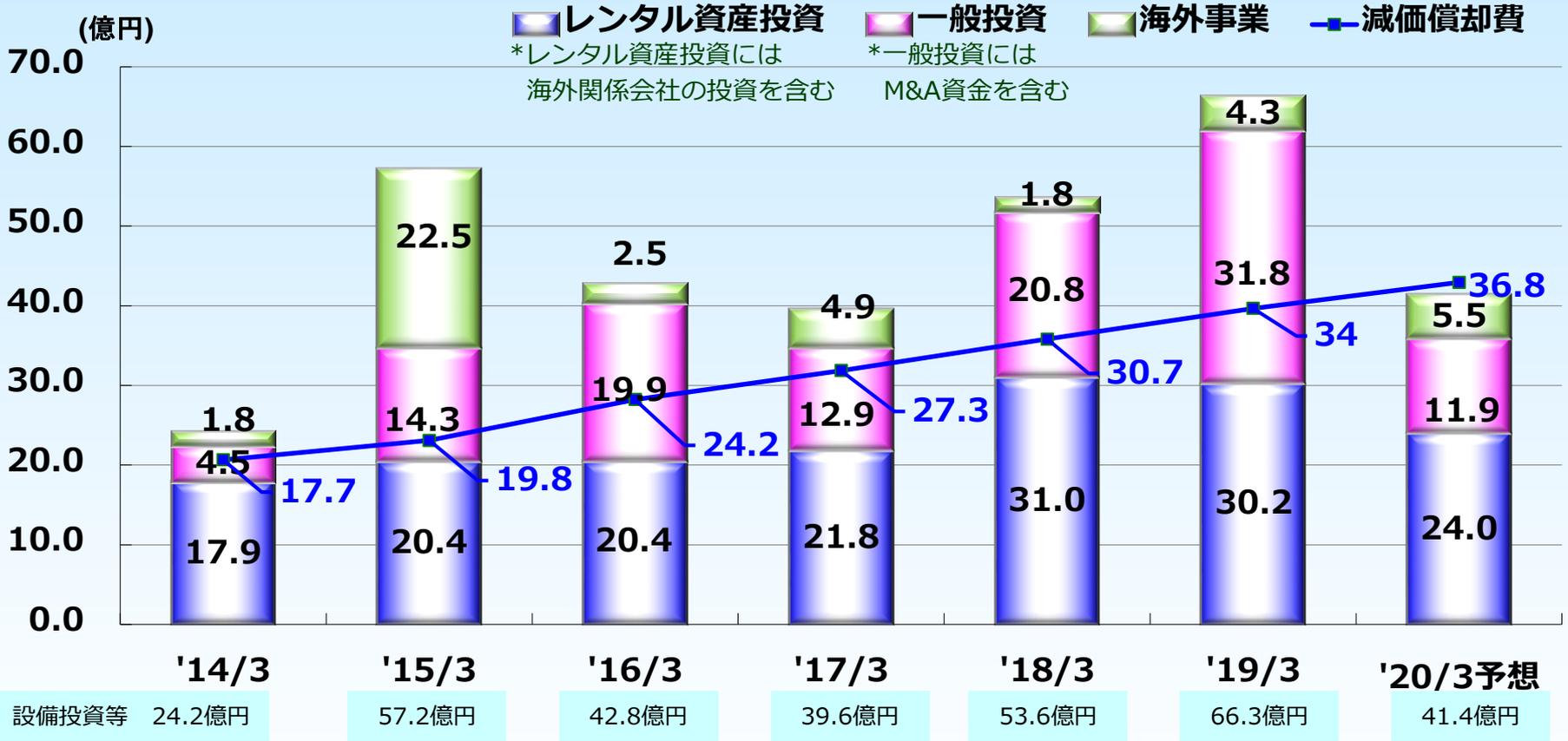


- 
-
1. アルインコの事業内容
 2. 経営方針と今後の展開
 3. 投資等の推移と配当政策
 4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
 5. 2020年3月期第1四半期の状況

投資等の推移

*無形固定資産及び海外関係会社への出資等も含む

投資ターゲットは、レンタル資産、海外、M & A



- '15/3月期は、国内では新工場用地取得に4.9億円、足場板製造ライン増設に4.1億円を投資。海外ではアルインコ（タイランド）の工場が完成するとともに、インドネシアの関係会社への出資を実施
- '16/3月期は、新工場・製品倉庫建設に9.8億円と足場板製造ライン設置に2.8億円（総額6.9億円）を実施
- '18/3月期は、'17.3.31付けで双福鋼器(株)の株式51%を12億円で取得（グラフの一般投資に含む）
- '19/3月期は、'18.7.2付けで昭和ブリッジ販売(株)の全株式を25.9億円で取得（グラフの一般投資に含む）

EBITDA_※と投資等の推移

※ EBITDA=経常利益+減価償却費+のれん償却額

積極的な投資を継続しながらも、EBITDAは着実に伸長しています



配当について

株主還元の更なる充実のため配当政策の基本方針を変更

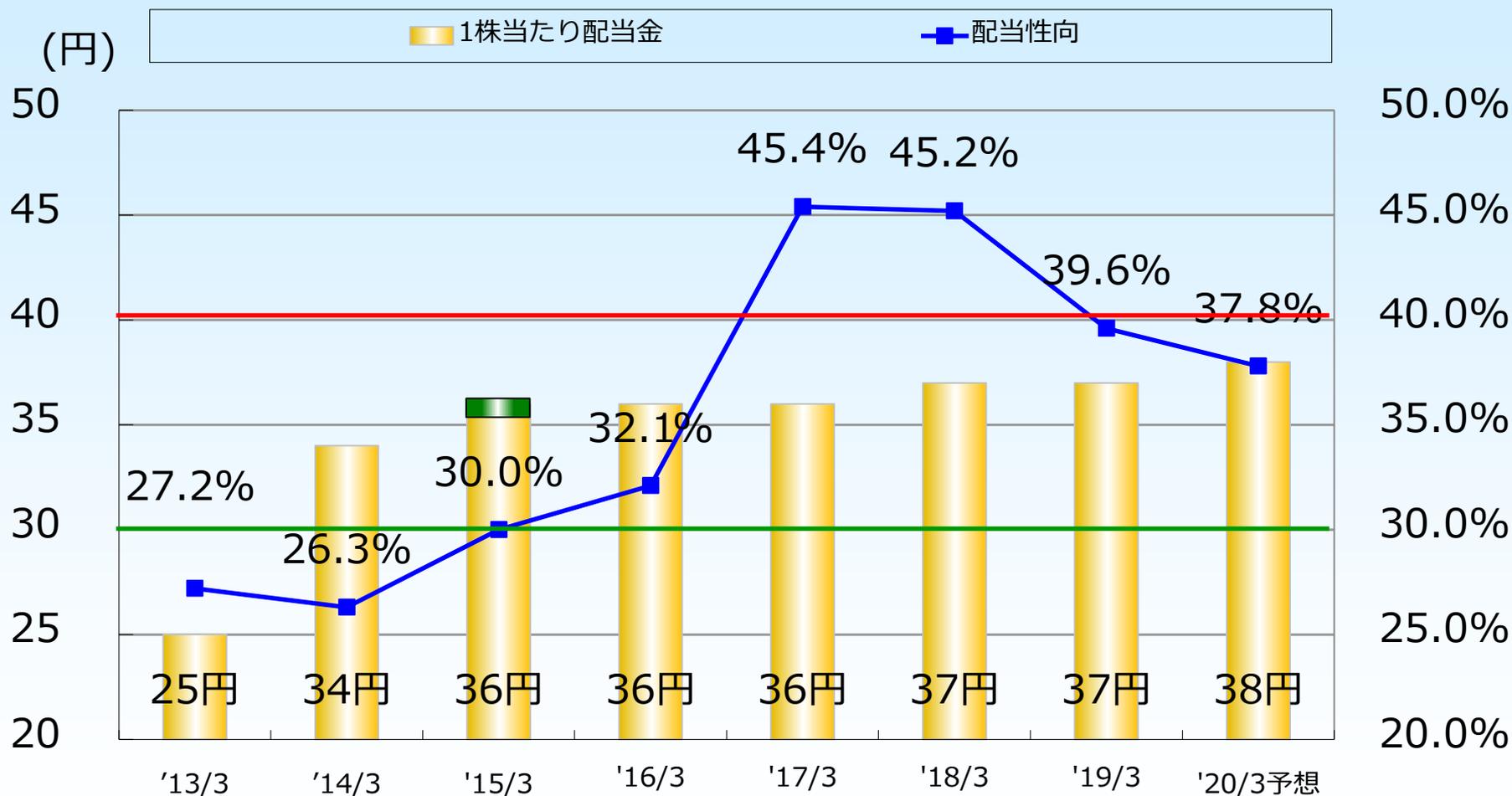
- 安定的な配当の継続を基本方針とし、
連結配当性向40%を目標として配当を実施
変更前：配当性向30%以上を目安
変更後：配当性向40%を目標
- 自己株式の取得については、引き続き、株価や経営環境の変化に対する機動的な対応や資本政策及び利益還元の一方法として適宜実施を検討

'19/3月期株主還元の状況

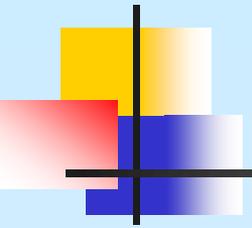
- '19/3月期配当は1株当たり中間配当金18円を実施、期末配当金19円、
年間合計で37円を実施
- 自己株式70万株の取得を実施（7.4億円）

'20/3月期配当は1円増配の38円を予定する

配当金と配当性向の推移



※ '15/3には東証1部指定記念配当2円を含む

- 
-
1. アルインコの事業内容
 2. 経営方針と今後の展開
 3. 投資等の推移と配当政策
 4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
 5. 2020年3月期第1四半期の状況

2019年3月期決算の概要

(単位：百万円)

	2018/3月期		2019/3月期		前期比 増減率 (%)
		売上比(%)		売上比(%)	
売上高	50,096	-	53,862	-	+ 7.5
売上総利益	13,685	27.3	14,413	26.8	+ 5.3
販管費	10,967	21.9	11,492	21.3	+ 4.8
営業利益	2,717	5.4	2,920	5.4	+ 7.5
経常利益	3,089	6.2	3,306	6.1	+ 7.0
親会社株主帰属当期純利益	1,680	3.4	1,891	3.5	+12.5

- コア事業の事業環境は、首都圏での大型建築工事本格化や東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設需要の高まりによって良好に推移した
- コア事業の堅調な業績と新たに連結した昭和ブリッジ販売(株)の寄与によって売上総利益が増加したが、電子機器の減収やレンタル資産の減価償却費増加が利益率の下押し要因となった
- 物流コスト上昇や人員拡充による人件費増加により販売管理費が増加したものの、売上高の増加によって営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比増加した

セグメント別実績について

(単位：百万円)

	2018/3月期		2019/3月期			
	売上高	セグメント 利益 <small>(うち、為替差損益)</small>	売上高	前期比 (%)	セグメント 利益 <small>(うち、為替差損益)</small>	前期比 (%)
建設機材	17,798	2,029 (16)	19,331	+ 8.6	2,424 (38)	+19.4
レンタル	15,887	228 (-)	17,173	+ 8.1	310 (-)	+35.8
住宅機器	12,806	663 (283)	14,110	+10.2	515 (187)	△22.3
電子機器	3,604	106 (10)	3,246	△10.0	△89 (13)	-
調整	-	61 (△171)	-	-	145 (△2)	-
全社合計	50,096	3,089 (139)	53,862	+ 7.5	3,306 (238)	+ 7.0

セグメント別売上高／利益の状況

前期比増減要因

建設機材

- 社会インフラの改修整備や首都圏での大型建築工事の本格化など、需要の高まりで新型足場「アルバトロス」のほか、アルミ製品が好調
- 鋼材価格の上昇は想定内となったが、販売価格への転嫁も原材料価格の動向に応じた対応となり利益面では大きな影響なし

レンタル

- 中高層用レンタルは夏場以降の稼働率上昇により好調であったが、低層用レンタルは新設住宅着工減少の影響を受けた
- 期初から積極的に新型足場を中心にレンタル資産を投下したため、減価償却費が増加

住宅機器

- アルミ製品（はしご、脚立など）は機械工具ルート向けなどが好調
- フィットネスは販売企画が好評で売上高は前期比17.5%増
- 利益面では、為替変動をヘッジする目的で利用している為替予約による為替差益が前期比で減少

電子機器

- 特定小電力無線機や業務用無線機の販売は好調
- 防災行政無線が、システム導入先自治体の計画年度が延期となった影響を受けて前期を大幅に下回った（納入は2019年秋ごろの見通し）

2020年3月期計画について

(単位：百万円)

	2019/3月期 実績		2020/3月期 計画		前期比 増減率(%)
		売上比(%)		売上比(%)	
売上高	53,862	-	56,700	-	+ 5.3
売上総利益	14,413	26.8	15,420	27.2	+ 7.0
販管費	11,492	21.3	12,300	21.7	+ 7.0
営業利益	2,920	5.4	3,120	5.5	+ 6.8
経常利益	3,306	6.1	3,350	5.9	+ 1.3
親会社株主帰属当期純利益	1,891	3.5	1,990	3.5	+ 5.2

セグメント別計画について

(単位：百万円)

	2019/3月期実績		2020/3月期計画			
	売上高	セグメント利益 (うち、為替差損益)	売上高	前期比 (%)	セグメント利益 (うち、為替差損益)	前期比 (%)
建設機材	19,331	2,424 (38)	20,281	+ 4.9	2,244 (-)	△ 7.4
レンタル	17,173	310 (-)	17,158	△ 0.1	172 (-)	△44.5
住宅機器	14,110	515 (187)	15,483	+ 9.7	704 (13)	+36.7
電子機器	3,246	△89 (13)	3,777	+16.4	14 (2)	-
調整	-	145 (△2)	-	-	215 (-)	-
全社合計	53,862	3,306 (238)	56,700	+ 5.3	3,350 (15)	+ 1.3

セグメント別計画の前提

計画の前提について

建設機材

- 仮設機材の受注状況は引き続き堅調で、新型足場「アルバトロス」の拡販を図るとともに関連製品の開発を進める
- 鋼材価格上昇を見込み利益率低下。計画的増産に伴う在庫保管コストや販売費増加などにより減益を見込む

レンタル

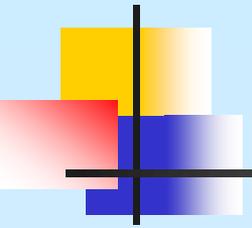
- 中高層用レンタルは保有機材増と高稼働維持により増益を図る
- 海外子会社はローカル展開が進み償却前利益が黒字化の見込み
- レンタル資産の減価償却費は引き続き増加するとともに、機材ヤードにおける整備運営コストの増加を見込む

住宅機器

- アルミ昇降製品は金物・機工ルート向け販売を強化するとともに、同ルートへの子会社(株)シップとエス・ティ・エス(株)製品の浸透を進める
- 為替レートは110円を想定。ヘッジによる為替差益は減少するが、前期実施の値上げ効果等で利益率が改善

電子機器

- 特定小電力やデジタル業務用無線の新製品効果により増収増益を見込む
- 建設機械や測量機器に搭載される無線モジュール製品の拡販に取り組む
- 期ずれした防災行政無線の受注獲得を見込む

- 
-
1. アルインコの事業内容
 2. 経営方針と今後の展開
 3. 投資等の推移と配当政策
 4. 2019年3月期の業績と
2020年3月期の計画
 5. 2020年3月期第1四半期の状況

2020年3月期第1四半期の状況

【通期計画】

	2019年 3月期 実績	2020年 3月期 計画	前期比 増減率 (%)
売上高	53,862	56,700	+ 5.3
売上総利益	14,413	15,420	+ 7.0
販売管理費	11,492	12,300	+ 7.0
営業利益	2,920	3,120	+ 6.8
経常利益	3,306	3,350	+ 1.3
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,891	1,990	+ 5.2

【第1四半期実績】

(単位：百万円)

2019年 3月期 第1四半期 実績	2020年 3月期 第1四半期 実績	前年 同期比 増減率 (%)	通期計画 に対する 進捗率 (%)
12,801	13,681	+ 6.9	24.1
3,577	3,806	+ 6.4	24.7
2,857	2,999	+ 5.0	24.4
719	807	+12.2	25.9
806	839	+ 4.2	25.0
457	478	+ 4.5	24.0

2020年3月期第1四半期の状況

- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設工事は終盤を迎えるが、老朽化した社会インフラの改修・整備や首都圏並びに主要都市における再開発案件は2020年以降も継続し、政府建設投資・民間建設投資ともに堅調に推移
- 建設機材及びレンタルセグメントにおいて、新型足場「アルバトロス」は販売、レンタルともに好調。海外子会社の業績向上も、売上総利益の増加に寄与

第1四半期のセグメント別の状況

【通期計画】

上段：売上高 下段：セグメント利益	2019年 3月期 実績	2020年 3月期 計画	前期比 増減率 (%)
建設機材	19,331 2,424	20,281 2,244	+ 4.9 △ 7.4
レンタル	17,173 310	17,158 172	△ 0.1 △44.5
住宅機器	14,110 515	15,483 704	+ 9.7 +36.7
電子機器	3,246 △89	3,777 14	+16.4 -
調整	- 145	- 215	- -
全社合計	53,862 3,306	56,700 3,350	+ 5.3 + 1.3

【第1四半期実績】

(単位：百万円)

2019年 3月期 第1四半期 実績	2020年 3月期 第1四半期 実績	前年 同期比 増減率 (%)	通期計画 に対する 進捗率 (%)
4,433 520	5,058 650	+ 14.1 + 25.1	24.9 29.0
4,292 128	4,126 138	△ 3.9 + 8.1	24.0 80.2
3,228 102	3,674 63	+13.8 △37.8	23.7 8.9
847 △11	821 △39	△ 3.0 -	21.7 -
- 67	- 26	- -	- -
12,801 806	13,681 839	+ 6.9 + 4.2	24.1 25.0

第1四半期のセグメント別の状況

2020年3月期第1四半期の状況

建設機材

- 新型足場「アルバトロス」の販売は期初から好調が継続しており、さらなる販売増が期待できる
- 物流関連は自動倉庫向けにラックの販売が好調

レンタル

- 中高層用レンタルは「アルバトロス」を中心に期初から稼働率が好調
- 低層用レンタルは非住宅分野の拡大で施工効率が改善し増収
- レンタル機材販売やイベント関連向けレンタルが減少

住宅機器

- アルミ製品（はしご、脚立など）は機械工具ルート向けなどの好調に加えて、量販店向けでも販売増
- フィットネスは新製品効果でマッサージ関連が好調
- 利益面では、為替予約から生じる為替差益が前年同期比で減少

電子機器

- 当期に繰り延べになっていた防災行政無線の自治体向け大口案件は、第3四半期から納入開始見込
- 第1四半期は特定小電力無線機や業務用無線機の販売が伸び悩んだ

株価の状況

7月19日現在(終値 1,021円)



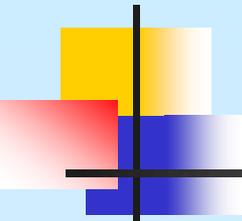
(C) 2019 Yahoo Japan Corporation.

<https://stocks.finance.yahoo.co.jp>

配当利回り
3.7%(予想)

純資産倍率
0.79倍

株価収益率
10.2倍

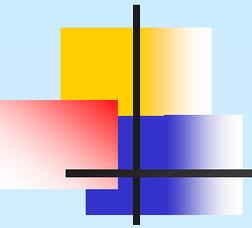


株主優待制度

株主優待制度

3月20日現在の株主様に対し、下記金額の商品券をお送りしています。

	3年未満保有	3年以上継続保有
500株以上所有 の株主様	1,000円分	2,000円分
1,000株以上所有 の株主様	2,000円分	3,000円分
5,000株以上所有 の株主様	4,000円分	5,000円分
10,000株以上所有 の株主様	6,000円分	8,000円分



業績見通しについての注意事項

- この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

アルインコ株式会社・経理部

大阪市中央区高麗橋4-4-9淀屋橋ダイビル

Tel:06-7636-2222・Fax:06-6208-3700